

平成30年度 石川県立飯田高等学校学校評価計画書(最終評価)

No. 1

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	成果と次年度の改善策
1	生徒の多様な進路希望を実現するために主体性の醸成による相応な学力養成	①	教員の授業改善と生徒の進路意識の向上を図る。	普通科の各学年において偏差値60以上10%、55以上20%、50以上50%の基準を A:すべて達成した B:2つ達成した C:1つ達成した D:すべて達成できなかった	1月模試の結果は 1年生 60以上23% 55以上43% 50以上61% 2年生 60以上9% 55以上16% 50以上42%	1年生 A 2年生 D	夏休みの改修工事のため、夏季補習が十分にできなかったが、「飯高塾」開設などの工夫で生徒、学年団ともに努力した。2年生においては偏差値50に到達していない層の向上が課題であり、今後しっかりと取り組みたい。
		②	進路実現可能な学力を身につけるために自立的学習習慣を定着させる。	進路アンケートで日々の学習時間を確認し、学年+1時間を達成している生徒の割合が、 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	1年生は 平日6.3% 土日30% 2年生は 平日1.1% 土日5.5%	D	課題などで家庭学習を促す指導を行うとともに、予習を必要とする授業を心掛けるよう努力する。同時に達成度判断基準についても検討する。
		③	公務員志望者が幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、実際の公務員試験に対応できる力を育成する。	公務員試験直前の模擬試験においてBランク以上の生徒の割合が A:60%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:30%未満	模試受験者12名中 B判定 2名 17% (C判定 10名 83%)	D	C判定のうち2名が教養点不足であった。個々の取組意識が結果に大きく影響するため、次年度は個々の意識を高めるための個人面談を一層、重視する。
		④	研究授業、互見授業を通して、探究的な学習活動や質の高いグループ学習を取り入れた効率的かつ効果的な指導法の改善を推し進める。	ICTの活用など授業に工夫が見られるという肯定的評価が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 授業を通じて学力(知識や技術)がついて来ているとする肯定的な評価が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	生徒アンケートの結果から ICT活用に工夫が見られる 57% 授業で力がつく 88%	D B	昨年度と比較して、資料の提示などICTを活用した授業が多くなった。また、板書やプリントの工夫が見られるという評価も83%である。今後も互見授業等を推進することでより効果的なICT活用法を研究する必要がある。
学校関係者評価委員の評価		進路実績が充実している。大学進学率が高く、地元を離れる子が多い。地域に根差した学校として継続し、帰る場所としての地域でありたい。					
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策		進路の充実を大切にしている。生徒が地域と連携するとともに、教員も地域との連携力が必要である。					

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	成果と次年度の改善策
2	人間関係力の向上による学校全体の組織力の強化と地域に愛される学校づくりの推進	①	HR活動や委員会活動をと おして、集団づくりや人間関係づくりを進め人間関係力を育てる。	校内の活動で、十分な意見交換や協働的な取組が日常的に達成できた割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	生徒アンケートの結果から 「達成できた」の回答は 1年生 93% 2年生 90% 3年生 92% 全 体 92%	A	十分な成果であり、次年度も継承する。
		②	携帯電話・スマートフォンの使用ルール遵守と1日の使用時間を削減する指導を進める。	①日常的にスマートフォン等使用ルールの遵守が達成できた割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 ②生徒のスマートフォン等1人あたりの1日平均使用時間が A:30分以内 B:40分以内 C:50分以内 D:50分より長い	生徒アンケートの結果から 「遵守できた」の回答は 1年生 74% 2年生 69% 3年生 83% 全 体 76% 「1日平均の使用時間」の回答は 1年生 83分 2年生 89分 3年生 58分 全 体 75分	B D	例年は使用時間が次第に減少していく傾向があるが、今年度1・2年生については減少が見られなかった。生徒の聞き取り等を行い、使用実態の詳細を把握し、改善を図る。
		③	時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。	「遅刻0の日」が年間合計で A:160日以上 B:150日以上 C:140日以上 D:140日未満	年間授業日数197日に対し、「遅刻0の日」は117日で、前年と比較して「遅刻0の日」は少なかった	D	学年で「遅刻0」を達成しても、学校全体で「遅刻0」を達成した日数が前年より少なかった。今後は個に応じたより細かな生徒指導上の工夫が必要である。
		④	挨拶や服装・交通マナー等基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。	日常的に挨拶をしっかりでき、規則を守ることができた割合が A:85%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	生徒アンケートの結果から 「生活習慣が身に付いた」の回答は 1年生 95% ・ 2年生 96% 3年生 97% 全 体 96%	A	十分な成果であり、次年度も継承する。
学校関係者評価委員の評価			学習時間が不足している、スマホの使用時間が長いなどの指摘があるが、一概には言えない。タブレット学習に取り組む事例もあり、部活動と両立させながらよくやっているのではないかと。				
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策			家庭学習時間は「学年＋1時間」を基本としている。予習を前提とした授業展開や課題の出し方などの工夫に努め、新しいタブレット学習の取組も検討している。授業でもICTの有効活用や板書を工夫することで、主体的・対話的で深い学びの実現につなげていく。「ゆめかな」や「地域学」の取組も今後の学力形成に必要な力であるためより一層の充実を図る。				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	成果と次年度の改善策
3 普通科、総合学科それぞれの特長を活かした教育活動と相乗効果を生み出す教育の推進	① 進学希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。(普通科)	年度末進路状況において、進学希望者の年度当初の進路希望が A:80%以上実現した B:60%以上実現した C:50%以上実現した D:50%未満であった 公務員希望者の年度当初の希望が A:70%以上実現した B:60%以上実現した C:50%以上実現した D:50%未満であった	年度当初の進路希望の実現率は67% 国公立希望者 38人／69人 私大希望者 14人／15人 専門・短大希望者 16人／16人 大学校希望者 0人／1人 公務員希望者の進路実現率は67% 公務員希望者 8名／12名	B B	今年度の結果を踏まえ、次年度希望者の指導に取り組む。 今年度の結果を踏まえ、次年度希望者の指導に取り組む。
	② 個に応じた進学指導、公務員指導、就職指導を充実させ、ミスマッチのない進路選択をさせる。(総合学科)	年度末進路状況において、進学希望者の年度当初の進路希望が A:90%以上実現した B:70%以上実現した C:60%以上実現した D:60%未満であった 就職希望者の内定を A:12月までに100%を得た B:1月に100%を得た C:2月に100%を得た D:3月以降に100%となった	年度当初の進路希望の実現率は78% 進学希望者 18名／23名 就職内定率100%は12月中に達成	B A	良好な結果である。今年は総合学科から国公立大学への進学者が出ている。
	③ 「ゆめかな」の活動の地域を知り地域に貢献しようとする活動を通して、生徒自身が自分で行動を起こせる力を涵養する。(普通科)	夢の実現のために、外部団体に対して満足できる働きかけを行うことができた生徒の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	生徒アンケートの結果から満足できる働きかけのできた生徒の割合は50% できた 18% まずまずできた 32% あまりできなかった 31% 全くできなかった 19%	D	活動内容によっては、外部団体との連携を必要としないグループもある。生徒だけの力では実現の難しいこともあるため、教員が適宜、助言を行い、今後、更に地域と活発に交流していきたい。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準		集計結果		最終評価		成果と次年度の改善策	
3	普通科、総合学科それぞれの特長を活かした教育活動と相乗効果を生み出す教育の推進	④	地元に愛着を持つとともに、地域産業と連携し、地域を支えるリーダー的気質を有した人材を育成し、地域の方々の人間関係力を身に付けさせる。(総合学科)	地域の方々との活動を通して、人間関係力が身に付いたと実感できた生徒が A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満		生徒アンケートの結果から 実感できた生徒の割合は80% とても実感した 22% 実感した 58% あまり実感しない 15% 実感しない 6%		B	B	昨年度に比べ、地域学や総合的な学習の時間を通して地域の方々との人間関係力が身に付いた生徒が増加した。一方で、コミュニケーションを図ることの苦手な生徒もいるため、教員がサポートし人間関係力を更に身に付けさせていきたい。	
		⑤	学習意欲喚起のための方策として、各種検定・資格取得を推進し、合格者を増やし、自己肯定感を高める。(総合学科)	学年及び系列の目標とする各種検定の合格率が A:75%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満 学年の目標とする各種1級検定受験者の合格率が A:50%以上 B:30%以上 C:20%以上 D:20%未満		各種資格検定の合格率は61% 339名／556名 各種1級検定の合格率は32% 36名／111名				1年生は検定取得に前向きに取り組み、結果に結び付いた。今後も努力を継続させていきたい。 上位級の取得増加に向けて各学校との情報交換を行い、取得に向けて早期に取り組んでいく必要がある。	
		⑥	普通科・総合学科の生徒が互いの学習活動を認め合い切磋琢磨し、学校を活性化する。	普通科(ゆめかな)、総合学科(地域学、課題研究)で行っている活動内容をお互いに理解し合う、仕掛けや場面設定を A:5回以上実施できた B:4回以上実施できた C:3回以上実施できた D:3回未満であった		今年度は、さいはてグルメフェスタ・ゆめかな中間発表会・総合学科の成果発表会・ラポルトすずで行われる最終発表会の計4回の場面設定を行うことができた。		B	B	今後は同じような研究テーマを融合し、普通科・総合学科の生徒混合でグループを作る。それぞれの知識、技能、特長を活かした活動を展開する。	
学校関係者評価委員の評価		就職内定率が高い。長期のインターンシップなど地元でマッチングさせる仕掛けがあると良い。									
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策		民間就職は16名(総合学科15名、普通科1名)で、そのうち地元就職は6名であった。学校に求人があったものから生徒が応募先を選ぶ方法を採用しているが、今後更に情報提供の方法を検討していきたい。									

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	成果と次年度の改善策
4	効率でかつ効果的な業務や指導法の改善を推進する	①	会議や校内研修を効率化することにより、生徒と向かい合う時間を確保する。	事前に設定した時間内に会議が終了した割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	職員会議を10回開催し、所定の時間を超過した会議は2回であった。	B	全職員の共通理解を前提に、更に効率的な会議の運営を目指していく。資料を一読した上で会議に臨むことなどを周知徹底していく。
		②	学校教育活動についてホームページ、メール配信システムを通じて効率的かつ効果的に発信し、保護者や地域の方の一層の理解を得る。	学校の情報提供は効率的かつ効果的に行われているという保護者が A:85%以上 B:80%以上 C:75%以上 D:75%未満	前期・後期の学校アンケートの回答でいずれも90%を超えていた。 (前期95%・後期97%)	A	アンケートで寄せられた意見をもとに、改善点を話し合い、更なる情報発信に努めていきたい。
		③	業務改善に取り組んでいることを地域や保護者の方々に周知し理解を図る。	地域や保護者の方々に対して教員の多忙化改善の取組について周知する機会の年間設定回数が A:5回以上 B:3回以上 C:1回以上 D:0回	取組についてPTA総会と保護者懇談会にて説明した。また、ホームページに部活動の年間計画を掲載した。	B	引き続き次年度も周知する機会を設け、地域や保護者の方々の理解を図る。
学校関係者評価委員の評価		学校の情報が保護者に届きにくい。メール配信やSNS発信なども取り入れることを検討してはどうか。					
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策		紙媒体だけでなく、HPやメール配信などの方法を取り入れている。今後更に効果的な情報発信方法について検討を重ねたい。					